

*Adventures of Huckleberry Finn*におけるモラルジレンマについての考察  
——ジムを中心に——

大貫 杏咲

概要

『ハックルベリー・フィンの冒険』(*Adventures of Huckleberry Finn*)は、1885年にマーク・トウェイン(Mark Twain, 1835-1910)によって発表された少年小説である。1830-40年代の米国南部を舞台とするこの物語は、主人公ハックの視点でアフリカン・アメリカンの方言を含んだ話し言葉で語られる。

時代設定や登場人物に一致がみられるため『トム・ソーヤの冒険』(*The Adventures of Tom Sawyer*, 1876)の続編として捉えられることも多いが、本作品には『トム・ソーヤ』では描かれなかったより社会的な問題をあつかっているという側面がある。そのためトウェインは本作において、『トム・ソーヤ』では踏み込むことができなかった少年期の先にある大人の世界をハックルベリー・フィンの生涯をとおして描こうとしたと考えられる。

この小説は当時の米国における宗教や人種差別、階級など、数々のテーマを含んでいることから読者にあらゆる観点からの解釈を提供する作品であるが、やはり本作品の主題は白人の少年ハックと黒人奴隷ジムが個人的な関係を築いていく点にあると考えるのが妥当であろう。なぜならこの作品は冒頭から結末まで一貫して、語り手であるハックと他の登場人物が接触することによって生じる道徳的問題を主眼としており、そのなかでもっともクローズアップされている人間関係というのが白人の少年ハックとジムのあいだにおけるものであるからだ。

またハックとジムの関係に重点をおいてこの作品を読み解く場合、もっとも印象的なのは奴隷制度が正義とされる南部社会のなかで育った良心と、逃亡奴隷であるジムの心情を思いやる気持ちとのあいだでジレンマに陥る主人公ハックの姿である。先行研究においてもこうしたハックの精神的側面に焦点をおいたものが大半であり、もはやそこに新たな議論の余地はないように思える。

一方、黒人奴隷ジムの人格や行動については人種主義論争の延長として読み解かれてきた部分が大きく、彼の個人的な内面性についてはこれまであまり語られてこなかった。しかし私は、本作品を読むなかでジムもハックと同様に相反するふたつの心情のはざまで葛藤しているという解釈に至った。ジムのなかにせめぎ合ったふたつの心情とは、みずからの自由を優先したいという欲求とハックを思いやる気持ちである。

そこで本論文では、作品の主題をハックとジムの関係性にあるとしたうえでジムのモラルジレンマに注目して考察を進めることにした。そのさい、ヘミングウェイが「まやかしにすぎない」と評し今なお議論を呼び続ける物語の結末部分を、ジムの立場からみつけ解釈することを課題とした。

まず第1章では、作品冒頭部と結末部分におけるジムの言動の矛盾点から明かされる彼の心情変化を指摘した。比較的冒頭部の場面において、ジムは自己保身のための行動を選択しているのに対し、結末近くになると彼は一貫して、ときにはみずからの自由を差し出してまでもハックに対する思いやりからもたらされる行動を優先的に取り続けていることから、物語が進むにつれてジムはハックに対する思いやりを強めていったと推察される。それにより、作中においてジムが自分の自由を優先する気持ちとハックを配慮する気持ちとのあいだでジレンマに陥っているのではないかという仮説を立てたのである。

続いて第2章では、ハックとジムの類似性にもとづき、彼らが直面するモラルジレンマの相関性について論じた。ある先行研究によれば、トウェインは実在したジミーという黒人の少年の特徴を、ハックとジム、それぞれのキャラクターに取り分けている。つまり、彼らは同じ人物をモデルとして創出されたキャラクターなのである。このため、実在したジミーという黒人の少年を軸として、ハックとジムに似通っている部分がみられるというのである。ここから、モラルジレンマに関連する彼らの類似点として作中から読み取れる

ハックとジムの言動から、彼らが共通して人間関係を円滑に進めることを優先しようとする性向をもっているという分析をし、この性向が彼らのジレンマに多大な影響を及ぼしているという推論を述べた。

第3章では、ハックとジムの特徴的なモラルジレンマについて、より踏み込んでいくためにケアの倫理 (ethics of care) という概念を参照した。ケアの倫理とは、ジレンマに陥ったときに普遍的な道德観念にもとづいて論理的な解答を導き出そうとするのではなく、人間関係の文脈に応じた対応をすることによって事態を解決しようとする道德的観念のことである。ハックがケアの倫理的な視点を持っているという先行研究の見解を踏まえて作品を読み解けば、ジムもまた同様の視点を持っていると捉えられるのであり、結末部分をとおして考えればハックよりもむしろジムの方がお互いの関係においてケアの倫理の特質を多分に内包していると考察できるのである。

最後に第4章では、それまでの考察で確認してきたジムの精神性を考慮したうえで、結末におけるトムという登場人物の役割と、作中にたびたび登場する「白人 (white)」という語の扱われ方にも着目し、問題の結末に対する私なりの解釈を述べた。ジムに焦点を当てて『ハックルベリー・フィンの冒険』を読み解くと、彼の黒人奴隷という身分から切り離された感情豊かなひとりの人間としての姿を明らかにできるとともに、結末については多少の皮肉的な要素も見いだせるが、作中においてハックがジムのなかに白人性を見出していることから察せるように、トウエイン自身の白人も黒人も中身は同じであるという当時の米国人としてはいくぶん柔軟な思想を垣間見ることができるのである。

#### 参考文献

- Bollinger, Laurel. "Say it, Jim: The Morality of Connection in *Adventures of Huckleberry Finn*." *College English* 29.1 (2002): 21-32. *Academic Search Premier*. Web. 28 Oct. 2015.
- Cooley, Thomas, ed. *Adventures of Huckleberry Finn: An Authoritative Text, Contexts and Sources, Criticism*. 3rd ed. New York: Norton, 1999. Print.
- Eliot, T.S. "Introduction to *Adventures of Huckleberry Finn*." Cooley 348-54.
- Emerson, Everett. *Mark Twain: A Literary Life*. New York: Pennsylvania UP, 1999. Print.
- Fishkin, Shelly Fisher. *Was Huck Black?: Mark Twain and African American Voices*. Oxford: Oxford UP, 1993. Print.
- Foner, Eric. *Give Me Liberty!: An American History*. New York: Norton, 2005. Print.
- Gilligan, Carol. *In a Different Voice: Psychological Theory and Women's Development*. Cambridge: Harvard UP, 1982. Print.
- Hearn, Michael Patrick, ed. *The Annotated Huckleberry Finn*. New York: Norton, 2001. Print.
- Hemingway, Ernest. *Green Hills of Africa*. New York: Scribner, 1935. Print.
- Lester, Julius. "Morality and *Adventures of Huckleberry Finn*." *Mark Twain Journal* 22.2 (1984): 43-46. Print.
- Sattelmeyer, Robert, and Donald J. Crowley, eds. *One Hundred Years of "Huckleberry Finn": The Boy, His Book, and American Culture*. Columbia: Missouri UP, 1985. Print.
- Smith, Cassander L. "Nigger or Slave: Why Labels Matter for Jim (and Twain) in *Adventures of Huckleberry Finn*." *Papers on Language & Literature*. 50.2 (2014): 182-206. *Academic Search Premier*. Web. 28 Oct. 2015.
- Twain, Mark. *Adventures of Huckleberry Finn*. Cooley 1-296.
- . *The Adventures of Tom Sawyer*. New York: Oxford UP, 2000. Print.
- . *The Autobiography of Mark Twain*. London: Chatto, 1960. Print.
- . "The Facts Concerning the Recent Carnival of Crime in Connecticut." 1876. *Mark Twain: Collected Tales, Sketches, Speeches, & Essays, 1852-1890*. Ed. Louis J. Budd. New York: Lib. of Amer., 1992. 644-62. Print.
- . "Letters about *Huckleberry Finn*." Cooley 299-301.
- . *What is Man*. New York: Book Tree, 2007. Print.

- White, Robert. "Care and Justice." *Ethical Perspectives* 16.4 (2009): 459-83. *Academic Search Premier*. Web. 10 Nov. 2015.
- Young, Philip. *Ernest Hemingway*. London: Bell, 1952. Print.
- 井川眞砂「アメリカ合衆国における『ハックルベリー・フィン』論争—黒人描写と人種主義をめぐる—」, 『国際文化研究科論集』第12号, 2004年, 13-29頁。
- 生駒久美「ハックの震える身体—ハックルベリー・フィンの冒険におけるトウェインのセンチメンタル・パニック」, 『マーク・トウェイン研究と批評』第6号, 2007年, 75-86頁。
- 亀井俊介『マーク・トウェインの世界』, 南雲堂, 1995年。
- 『マーク・トウェイン文学/文化辞典』, 彩流社, 2010年。
- ギリガン, キャロル『もうひとつの声: 男女の道徳観のちがいと女性のアイデンティティ』岩男寿美子・生田久美子・並木美智子訳, 川島書店, 1986年。
- 竹内康浩『謎解き『ハックルベリー・フィンの冒険』: ある未解決殺人事件の深層』, 新潮社, 2015年。
- 田村亮「揺れ動くハッカー『ハックルベリー・フィンの冒険』におけるハックの二面的態度についての考察」, 『英語英文学叢誌』第33号, 2003年, 65-79頁。
- 仲地弘善『『ハックルベリー・フィンの冒険』の研究—その主題と構成—』, 『琉球大学語学文学論集』第20号, 1975年, 171-190頁。
- 檜崎健「To de woods on de Illinois side: ジムの逃亡物語として読む『ハックルベリー・フィンの冒険』」, 『東海大学紀要』第86号, 2006年, 149-158頁。
- トウェイン, マーク『マーク・トウェイン自伝』勝浦吉雄訳, 筑摩書房, 1984年。
- 『トム・ソーヤの冒険』大久保康雄訳, 新潮社, 1976年。
- 『ハックルベリー・フィンの冒険(上)』西田実訳, 岩波書店, 1977年。
- 『ハックルベリー・フィンの冒険(下)』西田実訳, 岩波書店, 1977年。
- 『人間とは何か?』吉岡栄一・古山みゆき訳, 彩流社, 1995年。